

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
小 中 学 部	① 目指す児童像の実現に向けた学級経営、授業づくりを行う。(小中) 【関連:令和6年度学校経営方針P1目指す児童生徒像、P2令和6年度学校経営重点取組事項1】	① 目指す児童生徒像と各部の目標の関係、各部目標を具体化した児童生徒の姿を連絡会にて提案、協議する。 新様式の学級経営案やキャリア計画全体計画(試案)等を連絡会で協議する。 教務部、支援部と連携し「単元計画・評価シート」に「目指す児童生徒像」「キャリア発達の視点」を追記するよう検討を進め、提案する。	B	○ 校訓及び目指す児童生徒像を具体化した姿(試案)を作成し、職員会議にて提案した。7年度からの活用に向け職員から意見を集約している。 ○ 校訓、目指す児童生徒像を生かせるよう学級経営案様式を一部修正した。7年度に向け、さらに様式を修正する予定。 ● 7年度に向けて提案するための準備をしているため取り組めていない。
	② PDCAのサイクルを意識し、授業改善を行う。(小) 【関連:令和6年度学校経営方針P1目指す児童生徒像、P2令和6年度学校経営重点取組事項2(2)】	② 「各教科の到達度チェックリスト」を活用し、児童の実態把握を行い、「何を学ばせるか」「何を評価するのか」を明確にする。 「単元計画・評価シート」を使い、目標、手立て、評価などの情報を担当者間で共有し、効率的な授業を行う。 課題や問題点を明確にし、次年度の教育課程編成につなげる。	C	● 同チェックリスト活用が不十分であった。次年度は運用を教務部主体とし、作成、提出、見直しなどを年間計画に明記する。 ● 「単元計画・評価シート」の活用や評価の視点を具体化していなかった。 ● 7年度は、形骸化しないよう関係分掌部と定期的に内容を確認し、授業改善及びカリマネにつなげる。
	③ 関係各校、関係各機関と連携した特色ある教育活動を推進する。(小) 【関連:令和6年度学校経営方針P1目指す児童生徒像、P2令和6年度学校経営重点取組事項3、4】	③ 関係機関からの情報を積極的に部内で共有したり、必要に応じて他機関へ情報をつないだりする。 交流及び共同学習を計画的に行い、同年代の友達との関わりを広げる。 HPを活用し積極的な情報発信を行い、地域との接点を増やす。	A	○ 巡回療育相談では、医ケア対象児との情報共有が適切に行われた。 ○ 学校間、居住地ともに計画的な交流及び共同学習を実践できた。 ○ 週に1回のペースでHPを更新し、1月現在で34号まで発信できた。
	④ 自立活動の時間の指導の充実を図る。(中) 【関連:令和6年度学校経営方針P1 目指す児童生徒像、P2令和6年度学校経営重点取組事項2(1)】	④ 「実態把握チェックリスト」を活用した実態把握を担当、自立活動部、部主事間で共有する。 目標確認会を活用し、課題関連、目標及び指導内容を精選する。 部主事、自立活動部は、必要に応じて適宜助言する。	B	● チェックリストについては担任主体になっていた。この段階から適宜助言すべき必要があった。 ○ 全児童生徒の課題関連図を作成し、担任、自立活動部と目標や指導内容を協議・精選できた。 ● 教育活動全体での指導は行われたが、時間の指導の実践が不十分である。
	⑤ 外部の専門家と連携した指導に努める。(中) 【関連:令和6年度学校経営方針P1 目指す児童生徒像、P2令和6年度学校経営重点取組事項7】	⑤ 生徒の実態把握を丁寧に行い、学習上、生活上の困難を明確にする。 必要に応じて保護者との面談、関係機関との情報共有を適宜行う。 障害特性を踏まえ、個別の教育支援計画の内容を充実させる。	B	○ 主に中学部生徒の案件を中心に、関係機関の方々との協議や相談、保護者面談を実施できた。根本的な問題解決にはつながっていないが、案件発生時に早期な対応はできた。 ● 合理的配慮について保護者、関係機関にも伝え、継続的に支援をしていく。また関係分掌部と協力し、様式変更も踏まえ活用の仕方を修正する。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
高等部	① 学校生活全般を通して、「明るく健康で笑顔いっぱいの子ども」「思いやりのある心豊かな子ども」を育成する。	① 生徒、職員が気持ちの良い挨拶を励行し、コミュニケーション能力の向上を図る。 学習活動や学校行事等を通じて、生徒同士がお互いの良さを認め合い、自己の持ち味や良さに気付かせ、自己肯定感を高められるようにする。	A	○ 生徒会役員による挨拶運動が定着した。 ○ 生徒、職員共に、互いに声を掛け合う場面が多く見られた。 ○ 日常の学校生活や各学校行事において、仲間と協力したり、自分の役割を果たしたりする中で、自信をもって活動できる生徒が多く見られた。 ● SNSによる小さなトラブルが何件あった。今後も継続的に指導していく必要がある。
	② 望ましい社会参加を目指し、生徒一人一人が卒業後の生活に必要な基礎的な知識や技能、態度を理解し、自己の課題の把握及び改善を通して、自己選択・自己決定による進路の実現を目指す。	② 現場実習や作業学習等を通じて、生徒、保護者が卒業後の生活について、自ら考え、明確なイメージがもてる進路指導を行う。 担任、進路指導部が連携し、適切な進路選択・決定ができるようにする。	A	○ 多くの生徒が、現場実習で自分の得意なことや課題を認識でき、普段の作業学習で課題をもって取り組む姿勢が芽生えてきた。 ○ 実習報告会等で仲間の実習の様子を見聞きすることで、自分の進路についてイメージを深めることができている。 ○ 進路指導部が積極的に進路先開拓を行い、幅広い進路選択に繋がった。 ● 福祉事業所の利用については、空きが十分でない現状があり、事業所や行政に学校から働き掛けていく必要性を感じている。
	③ 校内外での活動や学校ホームページ等を通じて、様々な情報発信を行うとともに、地域の方々や高等部進学を考えている生徒・保護者に向けて、学校の特色や魅力を伝える。	③ 学校公開や一日体験学習等で配付するパンフレットをより詳細な内容に改定する。 学校ホームページを通じて、学校行事や授業の様子をタイムリーに情報発信する。	A	○ 学校紹介のパンフレット、プレゼンテーション用データの改修を行い、学校公開や中学校での進路説明会などで活用した。 ○ 週一回程度のペースで学校だより「さるいわ通信」を発行し、学校ホームページに掲載したり、設置校の職員室や事務室に回覧したりした。
	④ 運動や文化活動に親しむ中で、自身の心身の健康や体力の向上を図るとともに、生涯スポーツへの動機付け及び余暇活動の充実を図る。	④ 部活動の再編を行い、活動の幅を増やす。 卓球同好会を発足し、部の規約の策定、指導方法の確立、活動内容の精選を図りながら、継続的な運営ができる組織づくりを行う。	A	○ 部活動を二つから三つに増やし、部活動の規約を新たに策定した。 ○ 新たに発足した卓球同好会は、部員が2名と少ないが、競技経験のある職員が練習相手となって活動しており、生徒のモチベーション向上にも繋がっている。 ○ 文化部は、昨年から引き続き、様々な作品応募に挑戦している。スポーツ同好会は、地域のスポーツ大会に積極的に参加している。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
教務部	① 教育計画の企画立案及び連絡調整を円滑に行い、適切な教育目標の達成に努める。	① 学校教育目標を達成するために、目指す児童生徒像を意識した授業運営を呼び掛けていくとともに、教育目標を意識できるような次年度の教育課程編成を目指す。 他の分掌部や設置校との連絡調整を行い、授業の企画運営が円滑に行えるようにする。	B	○ 設置校との連絡調整については、担当の方々が積極的に対応してくださった。授業の企画運営については、特別教室や設置校施設の使用等の調整をしてもらい、円滑に動くことができる。 ● 教育目標や目指す児童生徒像については今年度部主事が中心となって意識できるような方策に取り組んでいる。教務部としては授業計画など来年度に向けて教育目標などを意識できる取組を考えていきたい。
	② 教育課程の改善に向けた原案作成、教育課程委員会の適切な運営を図る。	② 教育課程編成の手順や仕組み、取り組む内容などを明確にして、全教職員が教育課程編成の手順を理解し、同じ方向性で取り組めるようにする。 小中高それぞれで教科会を設定し、各教科の課題について検討、改善を行い、小中高の系統性が図られた教育課程の編成につなげる。	B	○ 改善点について職員の同意を得るために話し合いを重ねて今年度は方向性を共通理解してもらえた。 ● 話し合いの手順や考え方に隔たりがあったので、来年度は提案の仕方など改善が必要。 ○ 教科会では、それぞれの課題を出してもらい、それをもとに年間指導計画の改善に取り組んでもらった。生活単元学習については今年度の取組を参考にして来年度の改善に生かしていきたい。
	③ 教務事務を適切に処理し、学校の円滑な運営を図る。	③ 教科用図書の選定と供給が円滑に進むように、職員の作業工程を早めに伝え、それぞれが作業内容を意識しながら業務を進められるようにする。 文書、個人ファイル及び教材、教具、消耗品等を定期的にチェックし、道具の不備による授業運営の妨げがないようにする。また、職員同士で声を掛け合いながら紛失等がないようにする。	A	○ 消耗品等については、担当が適宜チェックを行い不足分を追加購入するなどして授業運営に妨げがないように心掛けてもらっている。 ● 教科書選定の手順についてはうまくできているが、今後は業務の引継ぎを行い来年度も円滑に仕事が進められるようにしていかなければならない。
	④ 情報教育の推進及び情報機器の管理やセキュリティの保守を行うとともに、個人情報 の取扱いや危機管理についての職員の周知や研修を行う。	④ 情報教育の推進及び情報機器の管理について、定期的な保守点検を行うとともに、情報機器やアプリの紹介等、様々な場面での積極的な情報機器の活用を促す。 個人情報の取り扱いや危機管理について、情報セキュリティ委員会やICT研修会などを通して職員の啓発、および情報管理の周知徹底を行う。	A	○ LANのサーバーについては、定期点検で業者にきてもらい、不具合がある箇所の対応をもらった。 ○ 各部でコミュニケーションアプリや実態にあったアプリを使用しながら自立活動などに取り組んでいる。
	⑤ 視聴覚機器・機材の整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	⑤ 視聴覚機器、機材の保管について定期的に点検を行い児童生徒や職員が使用しやすい環境を作るとともに、使用後の返却等の管理の徹底を促す。 機器の不具合がないかを定期的に確認する。不具合があったときには早急に対応する。	A	○ 機器の管理については、担当が必要に応じて職員に向けて声掛けをして注意を促したり、保管庫のチェックを行ったりしている。 ● HDMIケーブルの使用頻度が高く、不具合が出ているものもあるので、確認した上で改めて購入などの対応をしていく。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
研究・自立活動部	① 教育実践上の課題を研究内容として取り上げ、職員一人一人の専門性の向上と見識を深めるために、校内研究、授業研究、事例研究、現職教育、人権教育(同和教育を含む)研修等の企画及び推進を行う。	① 「単元計画・評価シート」を用い、授業改善やカリキュラム・マネジメントの確立を目指した校内研究の推進を行う。 職員一人一人の専門性の向上を図るために、現職教育、人権教育(同和教育を含む)研修等の企画及び推進を行う。	A	○ 概ね計画通りに進行し、各学部での単元計画の作成や評価を行い、成果や課題を挙げることができている。 ○ 年度初めに現職教育の年間予定をまとめ、周知した。また、各種研修について、適宜連絡・調整を行っている。
	② 児童生徒の発達や障害特性に即した、効果的な自立活動の指導の充実に努める。	② 「自立活動の指導に係る力量形成チェックシート」の分析に基づいて、職員の課題に即した学習会を行う。 自立活動の目標検討(確認)会を実施し、児童生徒の実態に即した指導の充実や、職員間での共通理解を図る。	A	○ チェックシートの結果より「指導改善」の項目に課題があった。教育センター作成の研修パッケージを活用して、盈科小学校と一緒に研修を行うことができた。 ○ 各クラス単位で目標検討を行い、多くの職員間で共通理解することができた。また、上記の研修において指導内容を見直す機会とすることができた。
	③ 教育センター講座をはじめ、各種校外の研究会等の案内を行い、積極的な参加を呼び掛ける。	③ センター講座について、各期の講座内容を周知しながら、受講者を募る。 書架の文献等について、積極的な活用がなされるように、紹介等を行う。	A	○ ポータルサイトのお知らせ機能を用いたり、文書の回覧をしたりして職員に知らせることができた。それぞれの研修に参加することができた。 ○ 読み物については、必要に応じて職員に回覧することができた。
	④ 長崎県特別支援教育研究会に関連した業務を行う。	④ 長崎県特別支援教育研究大会への加入の周知や会費の取りまとめ、研究大会への参加について事務局との連絡・調整を行う。 次年度の紙面発表に向けて、準備を行う。	B	○ 加入及び会費の取りまとめ、研究大会に向けての事務局との連絡・調整をリモートするなど、適切に対応することができた。 ● 12月時点では、文書として準備をすることができていない。今年度の研究のまとめと併せて、年度末までに内容や構成の案を考える必要がある。
	⑤ 文化活動の啓発や図書等の整備に努める。	⑤ 校内の掲示場所の割り当てや計画を提示する。学習の様子や作品を展示できるようにする。 掲示や呼び掛け等を行い、文化的行事や各種作品展など参加を促す。	A	○ 適切な期間、適切な場所に掲示することができた。また、各クラスの学習の様子を掲示をすることができている。 ○ 昨年度に続き、美術の作品や部活など沢山の文化行事や作品展に参加できた。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
健康生活部	① 児童生徒が安心安全に学習に取り組むことができるようにする。	① 登下校時の児童生徒の安全について家庭や地域と連絡を密にする。 各種訓練(火災、不審者、地震、搜索)の内容を充実させ、危機管理体制を整備する。 盈科小学校、沓岐高校と連携を図り、緊急時への対応を迅速かつ円滑に行う。	A	○ 児童生徒の家庭や学校での様子について、送迎時や連絡帳で密に連絡し合えたため、大きな事故やトラブルはなかった。 ○ 搜索訓練等では、昨年の反省を生かし、取り組むことができた。 ● 来年度の危機管理マニュアルの作成に向けて、職員や警察の意見を踏まえ、より良いものにしていく。 ○ 設置校と合同で避難訓練を行う中で、反省等の共有や実施についての態度決定の話し合いなど、連携を深めることができた。 ○ 日頃から挨拶をしたり、交流を行ったりすることで、児童生徒の特性についても共有することができた。
	② 児童生徒が、明るく健康で笑顔いっぱいに学校生活を送ることができるようにする。	② 小中学部では挨拶や集会活動、高等部では生徒会を中心とした委員会活動を行い、児童生徒相互の親睦を図る。また、小中高交流会を実施して、学部相互の親睦も図ることができるようにする。 長期休業中の生活についての文書を配付し、保護者への啓発を行うとともに家庭との連携を図る。 学校生活アンケートをはじめとした各種アンケートを実施し、児童生徒の問題を把握する。	B	○ 小中学部では、挨拶や集会、行事等を通して児童生徒の親睦を深めることができた。高等部では、生徒会役員を中心に毎日挨拶運動を行い、生徒同士良好な関係を築くことができた。 ○ 小中高の交流では、パラスポーツ教室を通して児童生徒が一緒にゲームを行うなどして交流することができた。また、各部の学校だよりを掲示することで、お互いの学習活動を知るなど、間接的に交流を深めることができた。 ● 小中高交流会について、児童生徒の学びや職員の業務負担の軽減など踏まえて、実施回数や内容について今後検討が必要である。 ○ 沓岐地区学警連の生活指導に関する文書を基に、長期休業についての文書を配付し、保護者への啓発を行うことができた。夏季、冬季ともに、休業中の事故やトラブルなど、学校へ連絡はなかった。 ○ 1学期末に学校生活アンケートを生徒対象に実施し、気になる回答をした生徒には聞き取りを行い、職員に情報共有して対応したことで、大きな問題になることはなかった。 ● 学校生活アンケートを2学期末は実施できなかった。学期に一度、必ずアンケートを配付、集計し、トラブルの把握や未然防止に努める。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
健康生活部	③ 個々の能力に応じた学習内容を設定し、運動習慣を養うとともに総合的な体力の向上を目指す。	③ 体育科／保健体育の時間(朝の運動含む)において運動機会や時間を十分に確保する。 運動会、体育祭、マラソン大会などの体育的行事を通して、児童生徒が運動に親しめるよう、計画や内容を工夫する。 様々な運動領域を学習させることで運動やスポーツの楽しさを知り、運動習慣が身に付くようにする。	A	○ 保健体育や朝の運動で、様々な運動を取り入れながら、運動の機会を十分確保できた。 ○ 小中学部運動会は、設置校と協力しながら進めていくことができた。実態に合わせて参加種目や内容を考えることで、児童生徒が意欲的に取り組むことができた。 ○ 高等部の体育祭は、実施時期や内容などを設置校と十分に話し合い、計画をすることができた。持久走大会は、個人の実態や走力を考慮して、走る距離を三つの中から選択させることで、生徒が意欲的に取り組むことができた。 ○ 学習指導要領に記載されている運動領域を満たした教育課程の下、様々な運動を学習した。運動が苦手だと感じている生徒もそれぞれの目標をもち、前向きに取り組む様子が見られた。
	④ 健康や衛生に関する意識を高めるとともに、保健指導を充実させる。	④ 定期健診等で個々の児童生徒の健康上の課題を職員で共有し、学校全体で改善に向けて取り組む体制を整える。 感染症等の最新の情報収集を行い、組織的で迅速・適切な対応を行う。 保健領域の集会や行事を充実させ、健康・衛生に関する知識や技能を身に付けさせる。		○ 定期健康診断を滞りなく実施することができた。異常等がみられた児童生徒には通院を促すなど健康上の課題については、各学部で共通理解を図れた。 ○ 県内、市内の感染症発生状況を職員室に掲示し、対応が必要な場合は換気を行うなど、感染防止に努めることができた。 ○ 集会や保健体育の授業で取り上げた手洗い、歯みがきなど、生活の中でも継続して指導することができた。 ○ 月1回の体重測定の際に、個人の実態に応じて、各月の保健目標に則した指導を行った。
	⑤ 食に関する指導の全体計画を基に、各学部に応じた食育を充実させる。	⑤ 各段階に応じた年間指導計画を作成する。		○ 食に関する全体指導計画を作成し、各学部、段階に応じた指導をすることができた。 ○ 小中学部では、恵岐市の栄養教諭に来ていただき、給食集会を実施し、給食や栄養バランスについて指導していただいた。その後、各学級や学部において、食育指導を行うことができた。高等部では、特にマナーに力を入れ、指導を行った。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
進路指導部	① 児童生徒の障害の状態や特性、能力、性格等を把握し、適性の発見と伸長に努め、個々のニーズや発達段階に応じて早期からの進路指導の推進に当たる。	① 職業科や作業学習、進路学習を中心に児童生徒の働く力の実態を把握する。 キャリアパスポート等を活用し、発達段階に応じたたキャリア形成や進路学習を計画的に実施し、児童生徒の自己理解、自己選択の充実を図る。 卒業後の進路に関する壱岐市内外の情報を適切に提供する。 小中学部保護者にも高等部の実習報告会の案内を出したり、高等部1年生が高等部2年生の就労体験実習の見学を行ったり、「進路指導だより」を年3回発行したりするなど、保護者、生徒ともに将来を見据えた進路の情報提供や指導にあたる。	A	○ 実習や作業学習などを通して、児童生徒の得意なことや不得意なこと、社会人に向けての課題等を把握し、進路指導につなげることができた。 ○ 毎学期、各部の教育課程を確実に実施し、キャリア発達を意識した学習を行ったり、キャリアパスポートを活用し、家庭と連携しながら、自身を見つめきっかけとした。 ○ 壱岐市内外の情報について、ハローワーク等の協力もあり、多くの情報を得ることができた。 ● 保護者にも面談等を通じてお知らせしているが、小学部の保護者には不安を抱えておられる方もおられるので、研修会を計画するか、進路だより等で情報発信をする必要がある。 ● 小中学部保護者に実習報告会の案内を出すことを失念していた。次年度は確実にを行う。 ○ 「進路指導だより」を年4回発行することができた。今後も適切な情報提供に努める。
	② 児童生徒の将来の社会的・職業的自立を目指すために、進路学習や関係機関との連携の在り方を整理・再考し、今後の就労支援を充実させる。	② 進路希望調査や面談で児童生徒や保護者の考えを把握し、進路希望を共通理解する。 卒業生の就職先から就職後の様子など情報を提供していただき、在校生の進路指導に役立てる。 企業説明会で情報交換、情報収集を行ったり、障害福祉サービス事業所、ハローワークなどと情報を共有したりすることで、適切な進路指導体制の整備に努める。 ハローワークの職員に高等部の生徒の作業の様子を見学する機会を設け、実態を知ってもらい、ハローワークの職員が企業と生徒のマッチングがしやすいようにする。		○ 進路希望調査を活用して、進路に関する希望や疑問を各家庭から伺うことができた。 ○ 施設見学や同窓会を通して、卒業生の様子を把握したり、一般就労した新卒1年目の卒業生の指導を通して、在校生の進路指導の参考にすることができた。 ○ 企業説明会で情報交換や情報収集を行ったり、事業所、ハローワークと連携して、情報を共有したりすることができた。実習報告会には複数の企業に見学に来ていただいた。 ● 実習報告会には複数参加してもらったことができたものの、ハローワークの職員を対象とした学校見学会を設定するに至らなかった。今後の課題としたい。

※評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価	成果(○)と課題(●)
教育支援部	① 本校児童生徒の教育支援の充実・改善を図るとともに、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	① 個別の教育支援計画の円滑な運用に努めるとともに、支援会議等で保護者や関係機関との連携を図る。 設置校や近隣の小・中学校、高等学校との交流及び共同学習を計画、実施する。 学校リーフレットや学校公開、学校見学会等で本校の教育活動の啓発を図る。	A	○ 保護者、関係機関と連携しながら年間スケジュールに沿って個別の教育支援計画を作成し、支援にあたることができた。 ○ 計画通りに交流及び共同学習を実施することができた。 ○ リーフレットを学校公開、学校見学等に活用し、本校の教育活動の啓発を図ることができた。
	② 地域の学校等への教育支援を行い、特別支援学校としてセンター的役割や機能の充実を図る。	② 教育相談を通して、地域の学校や園の幼児、児童、生徒の支援を行う。 壱岐地区特別支援教育コーディネーター研修会へ参加し、各校との関係づくりに努め、各校(園)の校内支援体制の充実を図る。	B	○ 市内の学校から教育相談を受けた。先生方と授業観察後に指導、支援方法の検討をした。また、高等学校では個別の教育支援計画の作成について相談を受けた。 ○ 昨年度よりも相談件数が増え、幼稚園や中学校、高等学校からも教育相談の依頼があった。 ● 研修会に参加をすることができてはいるが時間の関係上、十分に話を聞くことが難しい状況である。研修会の際に本校からの紹介やコーディネータ間で情報交換を行う機会を設けて欲しいと管理職を通じて、市教委にお願いをしている。個別の教育支援計画の改定に向けて改善点を検討しているところである。
事務部	① 本校の事務部と連携して業務を行う。	① 学校間メールや電話などを用い、本校の各担当者と、日頃よりきめ細かに連絡・相談を行い、本校と分校間における画一的な事務処理を行う。また、物理的な距離もあるため、何事においても迅速な事務の執行を行う。 本校のみならず、壱岐高校事務室とも連携をとることで、一つの組織として壱岐分校の教育環境の整備・充実を実現する。	A	○ 就学奨励費や給与においては4月当初より本校担当者と密に連絡・相談を行い、漏れ、誤り等なく処理することができた。 ● 本校、分校間の物理的な距離や決裁に要する時間の見通しが甘く、締め切り間近になることがあったため早めの事務処理を心がける。 ○ 施設や旅費、予算の執行等においては壱岐高事務室の職員で連携をとりながら、迅速に対応することができた。